

日 時 平成26年3月8日(土) 午前10時～午後4時47分 天候 晴れ
撮影場所 城ケ島 撮影対象 海岸風景 参加者 9名

この撮影は、予定の5日(水)が低気圧の襲来で8日に繰り延べで行われた。 願い叶って、海岸風景にはお詠えの快晴に恵まれた。

定刻の10時には、集合場所の京急・三崎口駅前に男性9名が揃った。 10時9分発城ケ島行きバスに乗車。 車内は、我々と同じく悪天候で順延したと思われる行楽客ですし詰めの満員であった。 城ケ島大橋を渡り、10時30分白秋碑前バス停で下車。 なだらかな坂道を登り、10時55分城ケ島公園入口に到着。 撮影支度を整え、第一展望台から撮影を始めた。

第一展望台から南岸を見下ろすと、懸崖下の奇岩や岩礁に打ち碎ける波濤が様々なシーンを演出していた。 北岸に目をやると、対岸の風車をバックに彩色を凝らした遊覧船や釣り船が行き交うのどかな風景があつた。

11時10分全員が第2展望台に到着し、ここでも暫くの間南岸の崖下で岩礁に打ち寄せる波しぶきの風景などを撮った。 12時10分第2展望台を出発し、遊歩道沿いに西へと進んだ。 絶壁の下で千畳敷の岩場や岩礁に打ち碎ける波濤を俯瞰撮影した。

12時30分ウミウ展望台に着いた。 突き出た岬の険しい崖の上で数百羽の海鷗と少数のユリカモメが羽を休めているのが遠望された。 飛び立つ鳥や、来合わせた小さな遊覧船などを添景にして撮影。

12時40分赤羽根崎上に到着。 湾岸に下りると橋を架けたような「めぐりノ洞門」があつた。「馬ノ背洞門」、「眼鏡ノ洞門」とも呼ばれ、 長年の海蝕や風雪で浸食されて出来たものだ。 多くの観光客に交じって洞門や千畳敷などをテーマにした情景を撮影。 遊歩道沿いからの俯瞰撮影でも魅力的なシーンが撮れた。

1時15分赤羽根崎上を出発。 再び崖上の遊歩道沿いに西へと進みながら千畳敷や岩礁に打ち碎ける怒濤を狙ったが、外海にしては風が弱かったため、辛抱強く大波を待った。 沖合の漁船や近くを走る釣り船、海面の煌めきなども良い添景になった。 2時20分頃全員が城ケ島灯台下に到着し、近くの食堂で遅い昼食をとった。 空腹のせいもあり、新鮮な海鮮料理がことのほか美味しく感じられた。

3時10分頃食時を終えて、徒歩で城ケ島バス停に向かい、3時30分のバスに乗り4時35分、三崎口駅に到着した。 4時47分の快速特急に乗車し帰路に着いた。

この度の撮影旅行はこの時期にしてはそれ程寒くもなく、快晴にも恵まれて存分に撮影することが出来ました。 欲を言えば、もう少し強い風が吹いてくれれば言うことはなかったと思います。 なお此処の撮影にはフルサイズの450～600ミリのレンズが必要だと感じました。

以前城ケ島へは家族とのドライブや会社の慰安旅行、湘南シャトルの撮影旅行などで行きましたが、往時は施設も少なく遊歩道も笹藪の中の石ころ道が多かったように思いました。 今では公園の施設が整い、レンガ色の瀟洒な遊歩道が整備され、安全で快適な周遊が楽しめるようになっていました。 しかし、自然の風情は若干損なわれた感も否めません。 私が不案内のため、相沢さんと小野さんに多くのアドバイスを頂き、無事お勤めを果たすことが出来ました。 お二人に厚くお礼申し上げます。

Photo by Ooboshi

